

# 豊潤の里 だより

## 改めて皆さまに問う 処分場いる？

～ 全国から大量の産廃ゴミが搬入されてもいいのか ～



栗本ホールディングス(以下栗本 HD)は、地権者に買取金額を提示し処分場予定地の買取を行っている。土地が栗本 HD にわたったのではないかと噂話も耳に入るが、真実はわからない。私たち1人ひとりが現状をしっかりと見据えた上で、処分場建設の是非を、改めて問うてみたい。

### ◆木谷地区産廃処分場の概要と問題点

- ・処分場面積 **8 ha**
- ・埋立容量 **約90万<sup>m</sup>³** 埋立の高さ **61 m**  
※隣の竹原安芸津処分場の**約6倍**
- ➡自然災害(地震・豪雨による土砂崩れ等)が起きれば安全を担保できない。
- ・燃え殻、廃プラスチック類、金属・ガラスくず、植物性残さ**廃石綿(アスベスト)等**
- ➡「等」とは何か不明。重金属等有害物?!
- ・産業廃棄物(管理型)最終処分場
- ・**大型車両毎日25台**が全国から産廃搬入
- ➡搬入新道ができない時は**一般道を利用**
- ・15年間で埋立完了
- ➡埋立が超速い。15年間24時間監視は無理

### ◆事業者:(株)栗本ホールディングス(広島市)

#### ★産廃処分場運営で**膨大な利益が出る**

- ・50年間、し尿やゴミが運び込まれた地域の気持ちわかりますか? ➡「分かりません」(栗本担当者)
- ➡こんな体質の企業が処分場を造ったら・・・
- ・土地取得に向け地権者に同意書の取り付け
- ・安芸津漁協と内密に処分場建設の同意書を交わす
- ➡安芸津漁協総会で建設反対決議がなされたにもかかわらず、いまだに同意書は撤回されていない
- ・業者からの説明がよく変わる～信頼できない

### ◆安芸津クリーンセンター(し尿処理施設)跡地の計画

- ・昨秋閉鎖されたクリーンセンター跡地をどうするか。木谷・赤崎地区住民の願いを考えながら東広島市に提言したい。何か必ずできるはず。
- ・地域住民の力で「市民の憩いの場」に。
- ・処分場反対だけでなく、将来のまちづくりも一緒に考えて進めてみませんか。

### ◆赤崎海岸を見直し新たな価値を

- ・海岸の清掃活動・自然体験活動を計画。再評価を。

### ◆それでも処分場は必要か?

- 赤崎地区は50年間、し尿・ゴミが運び込まれてきた歴史がある。もう**「NO」**と言ってもいいのではないか。
- ・全国からのゴミ(産業廃棄物)の溜まり場。
- ・自然災害、交通事情から生活破壊
- ・木谷の将来を見据えたまちづくりは、住民一人ひとりの行動からしかつukれない。

# (コラム) 歴史から知恵を学ぶ 第10話 (最終回)

## あかつき ～ 木谷国民学校に駐屯した 暁 第6140部隊 ～

元木谷自治協議会会長 植野洋文(西之谷在住)

木谷自治協議会事務局から「豊潤の里だより」の原稿(コラム)の依頼を受け、第48号(2020年12月発行)からほぼ毎号の掲載となりました。読者の皆様に興味・関心を少しでも持ってもらえるよう、硬い文章にならないよう、写真も載せながら工夫してみましたが、限られた紙面の中でどれだけお伝え出来たか自信のないまま最終回を迎えることになりました。これまで御精読いただきありがとうございます。コロナ禍の最中、皆様ご健勝にてお過ごしください。

陸軍は、海軍と同様の多様な船舶兵器を保有していた。暁部隊とは、陸軍船舶指令部所属の「海上輸送など海にかかわる陸軍の部隊」のことで、広島県の宇品を本拠地とし、昭和17年(1942)7月に再編成され、「暁第〇〇〇〇部隊」という呼び名が与えられていた。暁第6140部隊は野戦船舶本廠に属し、その一部が安芸津に駐屯した。以下は勝谷義信先生(当時木谷国民学校教頭)の回顧録をもとに、木谷を拠点に活動した暁第6140部隊にまつわるエピソードを紹介するものである。



若き部隊長(榎原幸四郎中尉)

戦局は日々に悪化し、玉砕(ぎょくさい)の大戦の末期、昭和20年(1945)7月26日に暁部隊が突然木谷に駐屯して来た。兵舎は木谷国民学校新校舎階上の2教室を使用、8月21日までの1ヶ月足らずの期間であったが、70人足らずの小部隊で隊長は若い士官(榎原幸四郎中尉21歳=写真)、「大発(大型発動機艇)」2隻が学校横の農協の前につながっていた。

毎朝兵士を乗せた船艇がどこかへ出動して行った。どんな任務活動をしていたのか、当時は秘密で聞き出すことはできなかったが、終戦後かかわった一隊員から聞いた話では、忠海海岸に洞窟を掘り、そこを上陸用船艇の隠し格納庫とし、敵の攻撃から守る役目を果たすということだった。しかし使用しないうちに終戦となった。その洞窟のひとつは、石風呂(サウナ)として利用され賑わったそうだ。

戦争が終わり、8月21日に木谷を引き揚げ宇品に帰っていったが、その前日隊長から「学校に大変ご迷惑をかけ、色々とお世話になりました。お別れにこの大発で最後の記念航海をしましょう」という話になり、隊長指揮のもと全職員と隊員数名と共に瀬戸田の「耕三寺」へ行った。終戦後、隊長の榎原氏は、郷里の神奈川県小田原市に復員しておられるのがわかり、消息を訪ねて行きたかったが、残念なことに昭和48年(1973)48歳で亡くなられていた。(以上、勝谷先生の回顧録より)

戦争の末期、なぜこのような作戦がとられたのか、またなぜ木谷が選択されたのか判明していないのは心残りではある。



暁部隊が駐屯した木谷国民学校

## 鎌倉殿と木谷村（Ⅰ）

### ～ あの和田義盛の墓が、木谷にあるとは ～

慶寿院 矢原大和



和田義盛といえば、いま放映中のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の一人に数えられる登場人物。源頼朝が挙兵した当時から加わった豪族である。源平合戦や各地の戦で活躍する剛勇の者、弓の名手という。テレビでは、横田栄司が演じるひげもじゃらの武者でたびたび出てくる。あの木曾義仲の愛人の勇ましい女武者の巴御前が捕まった後、その気性に惚れ込んで、ぜひにと助命嘆願して妻に迎えた愛嬌ある豪傑でもある。この和田義盛は、頼朝や二代将軍頼家や三代実朝を支える宿老の一人で、長く活躍する。

さて、初代将軍の源頼朝が突然亡くなると、二代頼家が鎌倉殿（将軍）となるが、政情が不安定になり権力闘争が始まる。まず、あの「梶原景時」が追放され滅ぼされる。つづいて頼朝の弟「阿野全成」が呪詛の疑いで誅殺され、大勢力を誇った比企能員も「比企の乱」で殺され、頼家も幽閉暗殺される。つぎの三代将軍実朝の時代でも、「畠山重忠の乱」で武蔵野の豪族が討伐される。そして「牧氏の変」で初代執権となっていた北条時政も失脚する。北条義時が二代目執権の座について、やっと鎌倉政権が落ち着いた。

しかし、建暦3年（1213）に鎌倉初期最大の武力抗争「和田合戦」が起こる。北条氏の専横に反発する大規模な謀反計画がおきて、和田一族が立ち上がる。族長の和田義盛は、将軍実朝の諫めも聞かず、「傍若無人な北条義時を討つ」として蜂起して兵を挙げ、鎌倉の市街戦ともなったが、敗れて討ち死にしたのである。

和田一族は滅ぼされたが、密かに広島県下に逃れて隠れ住んだという伝説がある。福山市駅家町の和田氏は義盛の後裔といわれる。また、安芸国に落ちのび、安芸津町三津の隠畑に住み着いたという。隠畑の山中に「和田一族の墓」があり、峠を越えた木谷に「和田義盛の墓」という古墓があると伝えられている。

そのお墓を西之谷の上条地区の川妻信松氏が、山の中から自宅横の畑に移して大切にされていた。私も転墓の時には供養読経をあげに行った覚えがある。もう50年も前のことである。しかし、その場所は安芸津バイパス計画地にかかり、墓碑は一部を慶寿院の古墓群に移して、まとめて供養している。隠畑や上条にしても、古道も山も草木が生い茂り立入もできない。あちこちの五輪塔や侍墓も分からなくなっている。

しかし、伝説の物語は、ここから新展開する。平成21年3月に一部開通した安芸津バイパスの途中に「鎌倉トンネル」というのができた。なぜ鎌倉なのか。隠畑のあのあたりの小字が「鎌倉」ということで名付けたという。

えっ、ひょっとして和田一族が落人になって住み着いたのを、当時の人は「鎌倉、鎌倉殿・・・」と呼んだのかもしれない。それが地名に・・・。

隠畑という地名も、「隠した田畑・隠れところにある田畑」という。市の畑、正司畑などあるが、隠畑は「隠れ人の住んでいる所」ともとれる。いよいよ、伝説は本当かもしれない・・・。

（令和4年7月記述。次号につづく）

# 部会活動紹介



体育  
振興  
部会



6/5 東広島市民スポーツ大会に出場

3年ぶりに開催された第34回東広島市民スポーツ大会球技の部（ソフトボールを除く）で、グラウンドゴルフ（男子・女子）とソフトバレーボール（女子）に出場し、暫定順位は26位（36チーム中）。秋に実施される他のゲームでの活躍が期待されます。 <木谷体友会>

## 環境衛生部会



6/12 きれいなまちづくりキャンペーン

百名を超える参加者が、通学路を歩きながら周辺のゴミを集めて小学校に集合。「元々きれいな木谷じゃけん、ゴミはあまり落ちとらんかった」とは一住民の感想。 <東広島市主催>

## 福祉生活部会



6/23 保育所園児と楽しいクッキング

園庭で穫れた玉ねぎを使った昼食づくり。園児と一緒に玉ねぎやニンジン、ジャガイモの皮を剥き、美味しいカレーライスができました。 <木谷地区社協 蛟龍>

### 木谷自治協議会にご寄付をいただきました

ご厚情ありがとうございました。

令和4年6月 田阪 道雄 様（香典返し）

皆様からの温かいご寄付は、元気な木谷をつくるために活用させていただきます。

※ お問い合わせは、木谷自治協議会事務局（木谷地域センター内）までお願いいたします。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和4年6月末現在	685	1472	725	747
令和3年6月末との比較	-11	-49	-21	-28